

令和 5 年 6 月 30 日現在

機関番号：25405

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K03072

研究課題名(和文) 19～20世紀における瀬戸内地域と日本海地域の経済的・文化的交流に関する研究

研究課題名(英文) A study on economic and cultural exchange between the Setouchi region and the Sea of Japan region in the 19th and 20th centuries

研究代表者

森本 幾子 (Morimoto, Ikuko)

尾道市立大学・経済情報学部・准教授

研究者番号：20425060

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、まず、阿波国商人と北前船商人の肥料取引を通して、近世近代移行期における商品流通と、それらを担う商業資本の特徴について明らかにした。また、結節点となる湊から阿波国在方への肥料流通やその担い手と在方商人の成長についても明示した。さらに、肥料代金決済を通して、阿波国商人と北前船商人間の商取引に信用を供与したのが、大坂商人であったことから、当該期の大坂の商業金融機能の重要性を指摘した。さいごに、阿波国商人と北前船商人が、互いの取引先地域の寺社へ「返礼」の意を込めて何らかの奉納を行っていたことから、経済的取引だけではなく、文化的交流が取引関係維持のために重要な要素であったことを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、まず、経済的先進性が指摘されているにもかかわらず、実証的研究が遅れている19～20世紀の瀬戸内地域経済の特質を、日本海地域の商業資本との商取引分析を通して、新興商人の担う商品流通のあり方から提示できたことである。さらに、本研究では、瀬戸内地域と日本海地域の商業資本が、相互の地域に対し、「返礼」の意を込めた文化的象徴物を贈与し、奉納互酬関係を構築したことを指摘した。このことは、経済的取引関係だけでなく、地域内や地域を越えた文化的交流関係が、相互の継続的關係維持に不可欠であったことの証左であり、現在の地域経済が生み出す文化について考察する上で示唆的なものとなった。

研究成果の概要(英文)：In this research, I clarified the characteristics of commodity distribution and the commercial capital that supported them in the period of transition to the early modern period through the herring manure trade of Awa Province merchants and Kitamae-bune merchants. In addition, I clarified the distribution of herring manure from the port, which is a node, to the product production area (herring manure consumption area) in Awa Province and the bearers. Furthermore, I pointed out the importance of Osaka's commercial finance function, as it was Osaka merchants who provided credit for commercial transactions between Awa Province merchants and Kitamae-bune merchants through the settlement of herring manure payments. Finally, I pointed out that the merchants of Awa Province and the Kitamae-bune merchants made some kind of dedication to the temples and shrines in their trading partners' areas as "reciprocation". It was revealed that it was important for the maintenance of the relationship.

研究分野：流通経済史

キーワード：阿波国商人 北前船商人 肥料取引 大坂両替商 金融機能 地域市場 奉納 文化交流

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 1990年代～2000年代にかけて、近世・近代移行期の商品流通を担った商業資本に関する研究が進展した。とりわけ日本海地域を本拠地とし、北海道産鯊魚肥を瀬戸内地域や畿内に販売することによって資産を蓄積した北前船研究は、近世・近代移行期の流通経済史研究に多大な影響を与えた。

(2) 従来の研究においては、商品集散市場としての大坂の地位が低下したことが指摘されてきたが、1990年代～2000年代には、大坂両替商の役割を再検討することによって、近世・近代移行期の大坂の商品集散市場としての位置付けや商業金融機能を再評価する研究も進展した。

本研究で分析対象とする19～20世紀の阿波国(徳島県)における商業経営分析と当該期市場構造の関係については、例えば、三木與吉郎家など特定阿波藍商の経営以外、まとまった実証分析がなされていないのが現状であった。そこで、本研究の前提として、阿波国撫養の廻船問屋山西庄五郎家の経営分析を通して、同家の全国的廻船経営と幕末期の市場構造の関係、肥料問屋としての経営展開の様相、山西家と遠隔取引先間の代金決済と大坂商人の役割、大正期の経営転換とロシア領カムチャッカにおける漁業経営、地域の寺社への奉納による富の還元などについて明らかにした。

2. 研究の目的

(1) 本研究では、これまでの流通史研究をより進展させるため、まず、肥料(北海道産鯊魚肥)を媒介とした阿波国の商業資本と北前船商人の取引関係についての分析を進める。阿波国(徳島県)の藍商および肥料商と取引関係にあった北前船商人は、おもに、加賀国(石川県)越前国(福井県)を本拠地とする商人であったため、阿波国の商業資本と、これら北前船商人双方の経営分析から、より詳細な取引の実態を明示する。さらに、これまでの研究対象であった阿波国撫養の山西家のほか、阿波藍生産地域(肥料消費地域)により近い藍商、肥料商の経営分析を行うことによって、阿波国領内(徳島県内)における北海道産鯊魚肥需要の推移や肥料取引を媒介とした商業資本と徳島地域経済との関係についても明らかにする。

(2) 阿波国(徳島県)の商業資本と北前船商人の肥料取引に信用を供与したのは、大坂(大阪)の肥料商や両替商であった。これまでの研究では、山西家の経営分析を通して大坂(大阪)商人の金融機能について言及してきたが、本研究ではそれに加え、大坂肥料商および大坂両替商の経営状況から、当該期大坂の商業金融機能の特質について考察する。さらに、山西家のような新興の廻船問屋が全国的に経営を拡大する際に、大坂市場が果たした役割をより明確にするため、江戸を含めた全国的な商業金融機能から大坂市場の位置付けについての再検討を試みる。

(3) 上記(1)(2)のような経済的関係は、遠隔地間取引を行う商業資本間において互いの地域を含めた文化的交流をもたらした。本研究では、これまでの研究(日本海地域の北前船商人が阿波国にもたらした鳥居・玉垣・絵馬・天井絵などの奉納物と地域社会の関係)に加え、北前船商人の本拠地であった加賀国(石川県)および越前国(福井県)にて奉納物調査を実施することによって、阿波国商人と北前船商人間における文化交流の様相について明らかにする。

3. 研究の方法

以下(1)～(3)の研究方法は、「2. 研究目的」(1)～(3)に対応するものである。

(1) まず、阿波国(徳島県)商人の主な取引先であった加賀国橋立(石川県加賀市)および越前国三国(福井県坂井市)を本拠地とした北前船商人の史料の分析を行う。これらについては、本研究以前の調査で入手している史料もあるため、効率的な分析が可能である。また、幕末～明治初期までの山西家と北前船商人の肥料取引に関する史料の分析を通して、肥料の種類や数量の変遷、取引先の変化などの詳細を明らかにする。さらに、山西家のように湊の結節点に位置する肥料問屋のほか、阿波藍・白砂糖生産地域(肥料消費地域)により近い商業資本の史料を分析することによって、阿波国在方における肥料需要の動向を明示する。

(2) 次に、山西家と取引関係にあった大坂の肥料商および両替商の経営分析を通して、幕末期の大坂肥料商および大坂両替商の経営動向と山西家の経営の関係を明示する。また、「江戸大坂差引帳」(徳島大学附属図書館所蔵山西家文書)の分析によって、山西家と北前船商人間の肥料代金決済における大坂商人の信用供与の様相、取引先大坂両替商の変遷、山西家と大坂両替商の差引関係の特質、江戸を含めた大坂の商業金融機能等について明らかにする。

(3) 山西家の主な取引先であった加賀国橋立の北前船商人の氏神「出水神社」境内と、越前国三国の「汐見金毘羅神社」境内において、阿波国および瀬戸内地域からの奉納物調査を実施する。また、本研究開始前には、幕末・維新期の諸国廻船から出雲国鷺浦(島根県出雲市大社町鷺浦)清浄庵への奉納史料を入手していたため、阿波国商人や北前船商人と山陰地域の商品流通や奉納関係について分析することが可能である。

4. 研究成果

下記の研究成果(1)~(3)は、上述の「2. 研究の目的」「3. 研究の方法」(1)~(3)と対応するものである。

(1) 幕末~明治期にかけて、阿波国撫養の山西家の取り扱う肥料は、当初は瀬戸内・日本海・九州地域など多様な取引先がみられたが、明治前期になると、加賀国、越前国などの北前船商人との取引に特化され、北海道産鯡魚肥が中心となり、取引数量も増大した。当時、北前船商人との肥料取引をめぐって、撫養と徳島城下の商人との間で引船事件が勃発するほど、北前船の入津は撫養の地域経済にとって不可欠なものとなっていたのである。また、北前船商人によって撫養にもたらされた肥料は、撫養周辺地域や在方の商人による借銀の担保としても重要な機能を果たしていた。さらに、撫養から阿波国の在方へ肥料市場が展開するなかで、「取次」と呼ばれる商人や中小規模の肥料商など、最終消費者に至るまでに複数の介在者が存在するようになっていた。これらは山西家が着実に肥料代金を回収し、円滑な取引を行うためのリスク回避手段であるとともに、阿波国における富の蓄積を示すものでもあった。

本研究では、これまでの山西家に加え、米穀・肥料仲買であった玉谷家の経営分析によって、新たに、撫養周辺地域をはじめ吉野川流域(藍・白砂糖生産地域)山間部など、より肥料消費者に近い地域において、仲買的商人が広範囲に存在していたことが判明した。本研究によって、商品生産に加え、商品の需要構造を含めた幕末期の地域市場の展開の様相が明らかとなった。

また、最終年度には、当初の計画から研究対象地域を広げ、松江藩による尾道廻米、尾道商人と北前船商人の仕切状の分析を行った。これらの分析を進めることによって、今後、瀬戸内地域と日本海地域の経済的・文化的交流の実態がより具体的に解明されると考えている。

(2) 研究成果(1)で述べたように、幕末期以降になると、山西家が取り扱う肥料は、北前船商人がもたらした鯡魚肥が中心となった。鯡魚肥購入には、多額の資金が必要であったため、山西家は、当時、廻船経営によって江戸・浦賀で販売した齋田塩の代金を、江戸から大坂に送金することによって、肥料代金の決済を賄っていた。天保年間以降、銚子など関東の醤油醸造業に需要が拡大した齋田塩は、徳島藩によって流通統制策が敷かれ、江戸・浦賀の藩指定問屋に移出されていた。山西家は「葎物」となった齋田塩流通に積極的に関与することによって、安定的な塩代金を入手していたのである。嘉永年間から幕末期にかけて、江戸からの塩代金の為替取組は、複数の江戸両替商と大坂両替商が担うようになり、とりわけ山西家の商品代金決済のための資金は、大坂両替商のもとに集約された。これらのことから、大坂両替商の信用供与によって、山西家と北前船商人との肥料取引が成立していたことが判明した。一方、山西家の取引先大坂両替商の経営は決して盤石なものではなかったため、当時成長しつつあった新興商人間の取引に信用を供与することによって、手数料や利足による収入を得、経営維持を図ったことが推測された。本研究を通して、新興商人による遠隔地間取引の活発化に伴って、幕末期大坂の商業金融機能はより強化されたことが明らかとなり、当該期大坂市場の位置付けの再評価につながった。

(3) 幕末~明治期にかけて、山西家と北前船商人による肥料取引が増加すると、阿波国撫養の肥料商は、加賀国橋立地域の氏神(出水神社)に対して玉垣を奉納するようになった。出水神社境内の調査では、阿波国撫養の山西庄五郎、天羽九郎右衛門、天羽兵太郎、泉幸三郎など、幕末~明治期にかけて肥料商として成長を遂げた商人が奉納した玉垣がみられた。その他、大阪・徳島の肥料商であった金沢仁平や敦賀・備中国玉島のなど、北前船商人との肥料取引によって資産を蓄積した瀬戸内地域の商人の玉垣も確認された。さらに、越前国三国の汐見金刀比羅宮の境内調査では、阿波国藍商による狛犬奉納が確認でき、阿波藍、肥料取引を介した阿波国商人と北前船商人の文化的交流の地域的広がりが判明した。また、これら奉納のほか、地域の祭礼への参加など、人的な交流もみられた。本研究以前には、北前船商人が阿波国撫養の寺社に奉納した天井絵、鳥居、絵馬などの調査を実施したが、それらを含めて考察すると、山西家など阿波国撫養の商人と、北前船商人との間には、奉納互酬関係が成立していたことが判明した。このことは、経済的取引関係のみでは、取引先相互の関係性が完結しえないものであったことを示唆するものである。また、寺社がかつての地域社会の中心であったことをふまえるならば、商人による取引先地域の寺社に対する奉納は、自ら経済的恩恵に預かった地域に対する「返礼」の意が込められていたものと考えられる。

また、研究計画にはなかったが、当時の全国の商品流通の増大と阿波国商人による他地域の寺社への奉納の関係を分析するため、志摩国鳥羽青峰山(三重県鳥羽市)正福寺境内調査を実施した。正福寺境内の調査では、山西家をはじめ、阿波国廻船問屋たちが奉納した永代護摩札を確認することができた。これは、当時の主要航路において、増大する商品流通を担った新興商人たちの航海安全の祈りの表出であり、新たに創出された「文化」形態の一つでもあった。

本研究では、経済的取引関係に加え、このような文化的交流を介して、当時の新興商人間における信用関係が構築されていたことを明らかにした。このことは、従来の流通史研究において十分に考察されてこなかった要素であり、本研究によって得られた新たな知見となった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 森本 幾子	4. 巻 20
2. 論文標題 幕末期中央市場の金融機能と商人経営 - 阿波国撫養山西家の廻船経営から -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 尾道市立大学経済情報論集	6. 最初と最後の頁 105 ~ 140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18899/kei.2001.04	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 森本幾子	4. 巻 16
2. 論文標題 19世紀における阿波商人の経済活動と奉納	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 徳島地域文化研究	6. 最初と最後の頁 60 73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 森本幾子
2. 発表標題 幕末期阿波国商品生産地域における米穀流通
3. 学会等名 徳島地方史研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 森本幾子
2. 発表標題 幕末期地方商人の経営と中央市場の金融機能 阿波国商人を事例として
3. 学会等名 大阪歴史学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森本幾子
2. 発表標題 近世近代移行期の商人資本と地域経済-肥料取引をめぐって-
3. 学会等名 地方史研究協議会大会（徳島大会）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 森本 幾子（単著）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 清文堂出版	5. 総ページ数 638
3. 書名 『幕末・明治期の廻船経営と地域市場 - 阿波国撫養山西家の経営と地域 - 』	

1. 著者名 小林准士、常松隆嗣、多久田友秀、伊藤康弘、鳥谷智文、藤原雄高、仲野義文、中安恵一、森本幾子、伊藤昭弘、沢山美果子、要木純一、原豊二、西島太郎	4. 発行年 2020年
2. 出版社 今井印刷株式会社	5. 総ページ数 829
3. 書名 『松江市史 通史編4 近世 』（共著）	

1. 著者名 森本幾子ほか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 雄山閣	5. 総ページ数 313
3. 書名 『徳島発展の歴史的基盤 - 「地力」と地域社会 - 』	

1. 著者名 森本幾子ほか	4. 発行年 2023年
2. 出版社 特定非営利活動法人 Knit-K	5. 総ページ数 56
3. 書名 『K - 特集 海道を行く 5号』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

単著『幕末・明治期の廻船経営と地域市場』は第46回とくしま出版文化賞受賞（2022年3月）/その他の研究成果:「尾道と北前船 交流の歴史をたどる」（『尾道市立大学地域総合センター叢書』10所収、61頁～62頁、ISSN:2187-1205、2019年）/「尾道町の古文書を読む - 江戸時代の暮らしを感じる -」（『尾道市立大学地域総合センター叢書』11所収、25頁～28頁、ISSN:2187-1205、2021年）、（共著）『新尾道市史 資料編 近世』第九章 担当箇所「産業の発達と展開」、第十二章「生活・文化」（尾道市、2022年）

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関